

特集

# 私 たち の

# 県 下 一 周 駅 伝

第64回大会

平成二十九年二月十八日～二十二日  
五十三区間五八八・一キロメートル



3区 重留選手  
4区 永田選手



## 粘りの総合8位

鹿児島県の春を告げる風物詩「鹿児島県下一周市郡対抗駅伝競走大会」(以下、県下一周)が先日行われた。

奄美大島の日本復帰とラジオ南日本開局を記念して始まったこの大会は、今回で64回目。参加チームは地区ごとに分けられた12チーム。曾於チームは曾於市・志布志市・大崎町から21人

の選手と監督たちで編成されている。

今年の曾於チームは昨年活躍した主力選手が抜け、厳しい戦いとなったが、全員が補い合う駅伝らしい粘りの走りを見せた。

そして、今、また65回大会に向けた1年が始まるようにしている。この大会の魅力を改めて知るため、大会を支え、チームを支える人たちに話を聞いた。

# 県下一周 駅伝大会 で考える。

—櫻木監督は、県下一周駅伝に  
はどのくらい携わっているんで  
しょうか？

選手としては高校3年の時に  
初めて出場して、京セラに入社  
した後も走っていたので15回出  
場しました。その後、コーチと  
して11年、そして今、監督とし  
て4年が終わったところです。

—選手、コーチ、監督と立場を  
変えながら県下一周駅伝とい  
うのを見てきて、考え方という  
のも変わりますか？

全然違いますね。選手の時が  
一番良かった（笑）。自分のこ  
とだけを、自分がどうやってベ  
ストな状態で走ればいいのかだけ  
考えていけばいいから。やっぱ  
りコーチとか監督は全体を考え  
ないといけないので。

—コーチと監督の一番の違いは  
どこでしょうか？

責任ですね。やっぱり重さが  
違います。最後に決めるのは監  
督で、その責任をとらないとい  
けないので。考え方っていうの  
は変わらないと思います。

—選手を辞めたあと、指導者に  
まわったキツカケは？

持留前監督に誘われたんで  
す。それで、自分も監督やコー  
チに支えられて走ってきたし、  
そういう時期がきたのかなと思  
いました。まず自分ができる  
ことをやろうと。誰かがやらな

きゃいけないし、恩返しですよ。

—そうやって指導者側もたすき  
を繋いでいくんですね。監督と  
して一番大事にしていることは  
何ですか。

選手が走りやすい体制作りで  
すね。大会期間中だけでなく、  
練習も合宿も、朝がいいか夕方  
がいいかとみんなに聞いて決め  
ています。なるべく一緒にやつ  
た方がいいですからね。いつも  
一人でやるものだから、練習は  
集まってやったほうが楽しい。

—選考会など見させていただき  
ましたが、いい雰囲気でしたね。

選手同士の交流も大事ですよ  
ね。うちは合宿も公民館とかで  
一部屋に雑魚寝でやっているん  
です。他のところはホテルと旅  
館だと思っんですけど、もう  
ずっと伝統でやってる。

—高校生も社会人も全員同じ部  
屋で生活ってすごいですね。

その中で高校生の面倒を社会  
人が見たりして色々な話ができ  
るんですよ。ご飯も地元の人た  
ちが来て作ってくれます。

曾於チーム監督  
櫻木孝一さん

さくらぎ-こういち 曾於市財部町出身。曾於市役所所属。  
京セラ4年目から選手として曾於チームに所属。その後、コーチ  
を経て監督に。県下一周駅伝の出場回数は通算19回。

—そういった地域の力っていうのは大きいですか？

そうですね。郷土入りの時もすごく感じます。応援が多いから選手たちもいい走りをするんですよ。長距離っていうのは、自分の気持ち次第だから「もういいや」って思ったら力が抜けてしまうんです。絶対あきらめないっていう気持ちがあれば粘って走れる。そういうメンタルの部分でも支えになります。



選考会後のミーティングの様子。監督と各コーチからの話があり、双方のコミュニケーションの場でもある。

—駅伝というのは、やっぱりメダルの部分が多いですか？

大きいですね。調子がいい時の10<sup>分</sup>はあつという間だけど、悪い時は本当に長くて苦しい。まだ半分か！とか思う（笑）。だから、私たちも選手が投げたしまわらないように声をかけるんです。駅伝だから、1秒でも2秒でも早くたすきを持っていく！って。

—駅伝だから頑張れる、というのがありますよね。

ですね。やっぱり、たすきをつなぐことが駅伝の良さですし、またすごく重いものでもあります。今年は最終区までたすきを一日もつなげなかったんです、たすきをつなぐことの難しさを実感しました。

—今年は厳しい戦いだったのでしょうか？

力はあるチームだったと思います。ただ、本番に合わせきらなかつた。スタッフの責任でもあるし、なかなか難しいですね。



選考会前、選手たちのアップを見つめる。毎日は見れないからこそ、1回1回が大事な場となっている。

—今後のチームとしての目標はどんなものになりますか？

Aクラスに入って、Aクラスของทีมと競り合いたいというのが一番大きいですね。やっぱり前を走った方が選手たちも楽しいし、後ろで走ると後ろの走りに合わせてしまうんです。走り終わって楽しかった、あの選手と競り合って負けたけど楽しかったってくらいが一番いい。それをするためには「みんな」

が強くならないといけない。1、2人が強くてもどうにもならないんです。駅伝だから。

—駅伝だからこそその楽しさでもあり、難しさでもありますね。櫻木監督の思う県下一周ってどんなものでしょうか？

鹿児島県のランナーはみんな走りたいと思うものですよ。自分も小学生の頃、学校の前を走っていくのを見ていたので。その大会に出られた時、感慨深かつたのを覚えています。県下一周駅伝があるから走っているって選手はいっぱいいると思います。

—そうやって走る姿を子どもたちが将来、また走ってくれたら嬉しいですね。

曾於チームは今、若い子が少ないので、将来のためにもそういう子を増やしたいですね。今もやっています、地域で育てる、強くすることはできると思っています。

—貴重なお話ありがとうございました！

# 県下一周 駅伝大会 を支える。

曾於チーム事務局  
外牧 義崇さん

とのまき - よしたか 曾於地区教育振興会事務局所属。夏は県民大会、冬は駅伝の事務局を担当。県下一周駅伝には第61回大会より事務局として携わる。

「曾於地区駅伝運営委員会事務局」としてチームを支える外牧さん。女子駅伝と県下一周駅伝において、曾於地区の中継所へのお願いや道路申請、予算管理などの事務作業から、大会中は選手や監督たちのサポートなどを行っている。

—大会中も何回かお会いしましたが、いつも大会はずっとついていかれるんでしょうか？

そうですね。大会中は監督車にお昼ご飯を入れたり、タイムを測って前の選手との秒差を伝えたりしています。あとは、選手が急病のときなどはすぐに対応できるようになるべくついていっています。

—色々なことをしているんですね。

大会中は、自分の役割を見つけようと思っ  
て動いています。走り終わった後の選手に  
話を聞いたりとか。特に高校生とかだと、  
先輩たちにも話せなくて固くなってたりす  
るので話に行ったりですね。監督やコーチ  
じゃないからできるサポートをできればと  
思っています。苦しい状況でも客観的にみ  
て、その上でサポートしたいです。

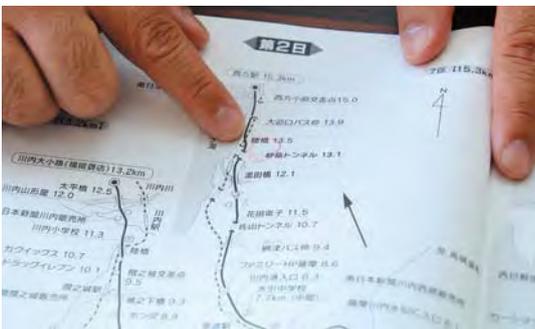
—外牧さんにとって県下一周駅伝って何で  
しょうか？

色んなことを学べる、教えてくれるもの  
が多いものです。よく監督が選手に「調子

悪くても、粘って最低限の仕事をするこ  
とが大事」って言うんですよ。そしたら次が  
あるからって。走っている選手たちを見て  
ると本当にそう思います。この言葉は、自  
分の仕事や生活において最も多く影響を受  
けた部分だと思っています。

—すごく大事なことですな。

郷土とのつながりも再確認できますし、  
鹿児島県にとつてすごく大事な行事だと思  
います。なので、事務局としては、これか  
らも存続していけるようちゃんと仕事をし  
ないと思います。できれば箱根駅伝くら  
いの伝統行事として、今後も続いていつ  
てほしいです。そのためにもつと人材の掘り  
起こしや大会の盛り上がりにつながる周知  
をしていかないとですね。



外牧さんおすすめの区間は2日目の7区（川内～西方）。大会内最長区間でエースクラスの選手が走るコース。ゴール手前がある海沿いの道では、風が強く吹く日もあり、走る選手たちの姿に観客は応援必至。外牧さんは見たことないらしく、いつか見たいと教えてくれました。

# 県下一周 駅伝大会 を伝える。



おすすめFMネットワーク  
前原さとみさん

まえはら - さとみ 福岡でのパーソナリティ経験を経て、コミュニティFM局の設立に携わる。県下一周駅伝の特番でもメインパーソナリティとして放送を担当。

「おすすめFMネットワーク」は、FMきもつき・FM志布志の3局と合わせて大隅半島の8割で聞くことができる。県下一周駅伝では、郷土入りの日に曾於チームと肝属チームの応援放送を行っている。設立1年目から始め、今回で11回目を迎えた。

「4日目、私たちもラジオを聞いていたのですが、選手の親御さんに電話中継したり、選手が好きな曲をかけたりとすごくリサーチがしっかりとしていて感動しました。」

ありがとうございます。練習会や結団式に行つて、アンケートを書いてもらつたり、話を聞いたりしているんです。もう10年やっているの、選手たちも覚えてくれているんな話を聞かせてくれます。

—すごい情報量ですよ。

ありがたいことに、リスナーさんが「小学校の同級生が出るんです」って小学校の頃の話だったり、当日も「今ここ走っているよ」とか情報をくれるので、生の声を届けられていますね。

—地域のつながりがあるからこそ、できる放送ですね。

本当にそうです。リスナーさんが「応援に行くので、中継しましょうか」って言うってくれたりします（笑）

—やっぱり中継って大事ですか？

大事です。ラジオは外に出てなんぼです。部屋の中で文字の情報を読み上げていだけじゃ「ただ走っている」になっちゃって、興味が引かれない。心をこめて選手の汗や足音、体の動きとかをちゃんと伝えないと面白くないんです。でも、ラジオの醍醐味ってそこだと思うので、駅伝とラジオは相性がいいですね。

—県下一周駅伝を伝える大変さは？

思い入れが強い人が聞いているというプレッシャーはすごく感じますし、言葉にはすごく気をつけています。県下一周駅伝を放送することは「おすすめFMネットワーク」を知ってもらいたい機会になるし、郷土を走る駅伝の良さを知ってもらえたら嬉しいです。



選手たちへのアンケート。自分の走りの長所や今年の抱負、好きな曲などの項目があり、回答が丁寧に書かれています。黄色い方は、親御さんに記入してもらったもので選手へのメッセージなどが。

# 県下一周 駅伝大会 を走る。

**長距離陸上と駅伝の違い**  
—お二人にとって、県下一周駅伝ってどんなものですか？

**坂中** 県下一周には高校2年の時から出ているんですけど、この大会がなかったら、もうやめると思います。

**松下** 僕もですね。

**坂中** ただ陸上をしてるだけだと「何のために走ってるんだろ」とってなっちゃう(笑)

**松下** この年になると、もうぶっちゃけ練習しても伸びることもないし、下がっていく一方で。個人の大会だけだったらとつくに引退してると思います。でも、駅伝だから続けてる。自分が必要とされていて、自分のためだけじゃなく、次の走者のため、チームのために力を発揮する。そこが難しいところでもあるけど、楽しい。

**坂中** 松下さんがいて、本当にすごくなって思います。「速い人」というより、「強い人」とって感じがして、見てて頼りになります。

**松下** 僕はどうすれば楽に走れるかを追及して練習してるんです。元々ストイックに練習に向き合うタイプじゃなくて。だから競技を長く続けてこれているのもあるんじゃないかな。走るのきついじゃないですか(笑)

**坂中** 見てて練習うまいなって思いますね。

—松下さんからみて坂中さんはどんなキャプテンですか？

**松下** やりやすいんじゃないで



選考会前に走る坂中さんたち。「みんなとジョギングする時間があるから競技を続けられている」と話した。

すかね、チームの選手からしてみれば。ガツガツしてる感じでもないし、若い子の意見も聞いて柔軟。おだてれば、すぐ調子乗るし(笑)

**坂中** (笑)

**松下** キャプテンによって、雰囲気も変わりますね。

**坂中** 自分自身、頑張らなきゃなと思いますね。合宿とか練習会では最初に先頭を引っ張っていく力は必要かなと。

## 曾於チームキャプテン 坂中 省章さん



さかなか-せいしょう 1986年生まれ。志布志市有明町出身。  
(株)ナンチク所属。県下一周駅伝には通算14回出場。

# 曾於チーム最年長 松下 泰平さん



郷土入り4日目、5区（末吉～大隅）を走る松下さん。沿道から絶え間なく声援が続いていた。



まつした-たいへい 1976年生まれ。奄美大島出身。そおりサイクルセンター所属。県下一周駅伝には通算19回出場。

## 選手にとっての郷土入り

— 4日目はやっぱり違いますか？

**松下** 全然違いますね。今回、僕は5区を走って、3位でたすきをもたらったけどボロクソ言われましたよ（笑）

**坂中** 沿道からの声援、けっこう聞こえますもんね。

**松下** 何やってんだーって感じで。地元の方としては、トップを走ってほしいっていう気持ちがあるけど、熱すぎるあまりのことだと思う

んですけれど。地元の人たちも熱くなる分、僕らも熱くなりますね。

**坂中** 応援がすごく身近に感じますね。例えば「頑張ってるね」とか「お疲れ様」とか声をかけてもらえるのも嬉しい。

**松下** 僕は久しぶりに末吉区間を走ったんですけど、一番下の子が末吉小学校、長男が末吉中学校にいて、その両方の前を走れたんです。走る姿を見せられたのも嬉しかったですね。

**坂中** 自分が中学生の時も。沿道で県下一周を見て、速くてすごいなと思ってました。

**松下** 近所のお兄さんが走ったりして「おお！すごい」ってね。今じゃ見せる立場ですから…。

— 県下一周駅伝を見て、憧れて走り始める子たちがいるかもしれないですね。

**坂中** そうだと嬉しいですね。僕が本格的に走り始めたのは高校からなんです。中学の時はサッカー部だったんですけど、当時あった曾於郡の8町で対抗駅伝というのに出て。それは中学生も出る大会で、選手は部活関係

なく、校内マラソンが速い人が選ばれるという。

**松下** 僕も中学のときはバレー部で同じように陸上大会に出て、それがきっかけで高校から始めました。

**坂中** 僕らみたいに、埋もれている子が絶対いるはず。曾於郡の対抗駅伝大会をぜひ復活させてほしいです！

**松下** 今、曾於チームは高校生が少ないのもっと小中学生に陸上を触れてもらいたいですね。

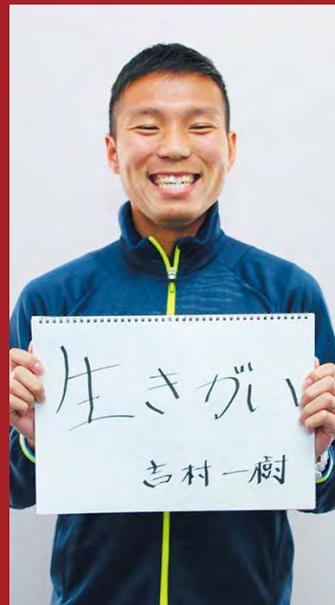
お二人ともありがとうございました！来年も全力で応援します！



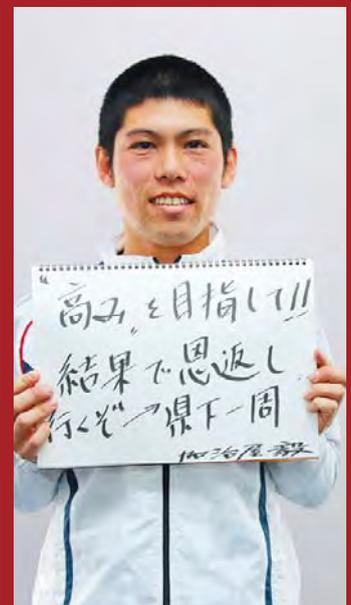
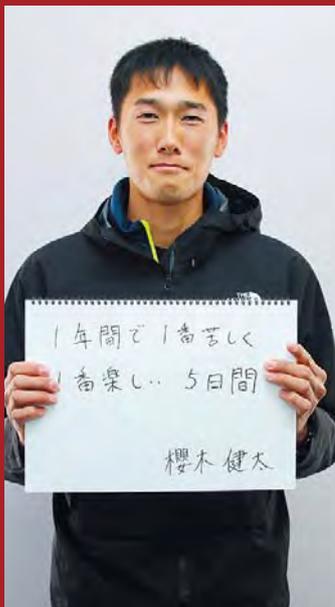


第 64 回結団式で選手たちに聞いてみました。

# 「あなたにとって県下一周駅伝とは？」



# 皆さん、ご協力ありがとうございました!

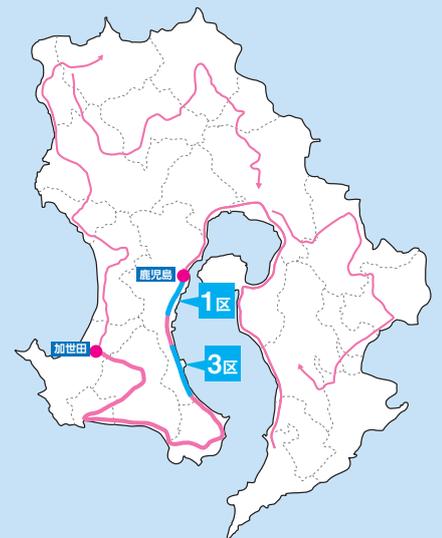


# 県下一周 駅伝大会 を追う。

県下一周駅伝大会では、毎日ドラマが生まれています。走る選手たちの表情、沿道から見える景色の豊かさ、気温や天気などが相まって、どの瞬間も特別なものとして目に映ります。

でも、テレビで目にするのはニュースくらいで、新聞だと自分のチームの写真は載らない日もあります。順位という結果を見るだけでは伝わらないものがあるから、少しでも伝えたい。今回、5日間曾於チームを追いかけてきました。

## 第1日目 鹿児島ー加世田



### 1区【12.9キロ】

鹿児島市役所前を出発し、鹿児島市内の街中を進む。スタート地点は応援に駆けつけた多くの人であふれ、選手たちには声援が送られていた。  
(走者・四俣選手)

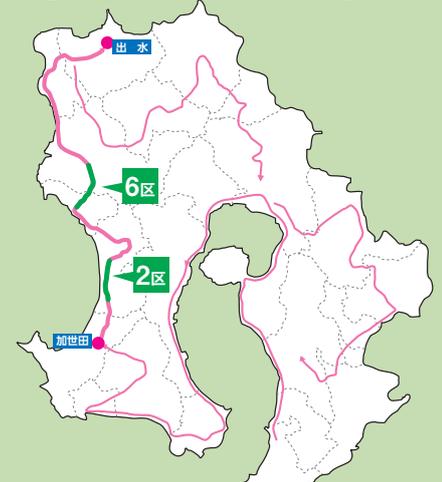


### 3区【14.1キロ】

喜入瀬々串から生見まで海沿いの道を進む。距離も長いことから、各チームのエースクラスの選手たちが競い合う区間のひとつ。コーチからの給水にも気迫を感じる。  
(走者・増田選手)



## 第2日目 加世田ー出水



### 6区【13.2キロ】

川内駅近く、ゴール直前の6区区間。4車線道路を車と並走していく選手たちの姿はゴール直前とあって苦しい。沿道からの応援が後押しとなる。  
(走者・稲留選手)



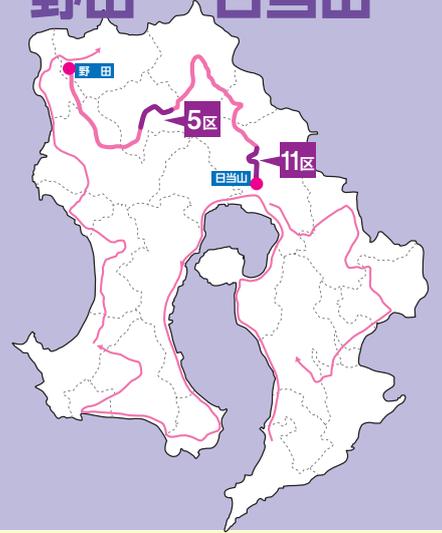
### 2区【10.9キロ】

前半に激しいアップダウンのある2区の間点を過ぎたあたり。選手たちが連なっている長い下り坂を降りてきた。選手たちの顔は険しいが足取りは力強い。  
(走者・有馬選手)



# 第3日目

## 野田 - 日当山

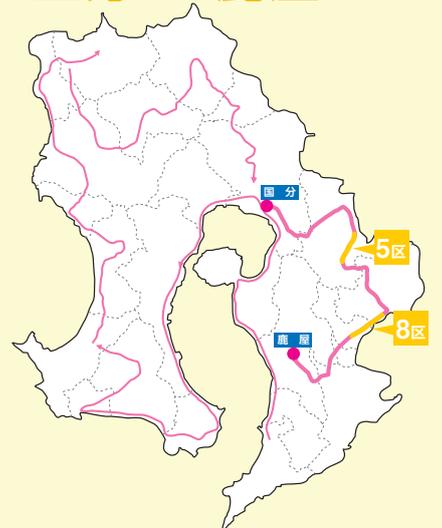


5区【12.2キロ】

大雨に見舞われた3日目の午前中。選手たちもずぶ濡れになりながら、足を前へ前へと運ぶ。この時間は春雷も鳴り響き、自然との戦いでもあった。(走者・後藤選手)

# 第4日目

## 国分 - 鹿屋

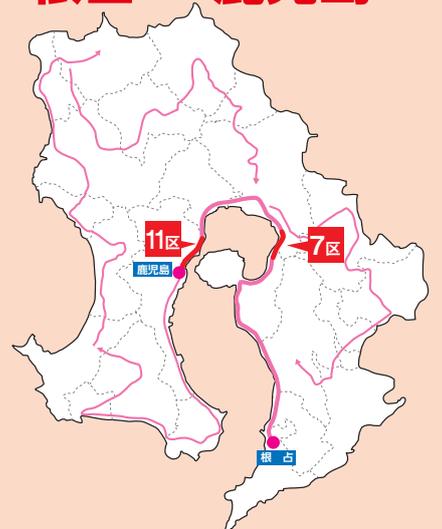


8区【10.9キロ】

上りが続く8区。昨日と変わって晴天で、観客たちも上着を脱ぐほどの気温。選手たちを容赦なく太陽が照り付ける。地元チームへの熱い声援を背に気力を振り絞って進む。(走者・橋口選手)

# 第5日目

## 根占 - 鹿児島



7区【8.6キロ】

海沿いの道を進む区間の多い第5日目。7区では鹿児島県のシンボルである桜島が選手たちの熱戦を見守る。海沿いゆえの強い風に煽られながら、チームを想い、走る。(走者・大迫選手)



11:33

11区【15.2キロ】  
県下一周駅伝の全53区間の中で、2番目に長い距離となる11区。長い下り、トンネルなどを抜けやっとのゴール。選手たちは1秒でも早く、と足を速めテープを切る。(走者・櫻木選手)



15:46

5区【8.5キロ】  
曾於市の市街地を走る郷土入りとなる4日目。いつもよりも多い地元の大きな応援。選手たちはプレッシャーと、それを超える力をもらってどんどん進んでいく。(走者・松下選手)



11:48



13:26



11:54

11区【8.3キロ】  
ついにゴールの瞬間を迎える。走り終わったメンバーと共に、この瞬間を無事に迎えられたことを喜び合った。5日間にもわたる長い戦いが、一旦幕を閉じた。(走者・平川選手)



14:44



2016.12.11  
南日本 10 ㎞  
ロード通信  
競技大会  
@財部

# 県下一周 駅伝大会 を写す。



2017.2.11  
8 ㎞ 最終選考会 @ 弥五郎伝説の里



2017.1.28  
10 ㎞ ロード選考会 @ 蓬原



2017.2.20  
8 区 岩松選手  
J A そおから応援も駆けつけた



2017.2.18  
7 区 吉村選手  
開間岳前にて日置チームと接戦



2017.2.20  
3 区 増田選手  
大粒の雨が降りしきる中を駆け抜ける

2017.2.21

10区 増田選手

おおすみFMネットワークのインタビューにて  
日間4位の結果に悔しさで涙する



2017.2.21

1区 稲留選手

初めての亀有峠を走りきり区間2位

2017.2.22

11区 平川選手

県外へ出るため最後の県下周駅伝  
アンカーを区間5位で走り切った



2017.2.22

9区 東選手

17歳2度目の出場で粘りの走り

皆さん、本当にお疲れ様でした!



2017.2.22